

令和4年度秋田県バリアフリー社会形成審議会 議事録

1 日 時

令和5年1月31日（月） 14時から16時

2 場 所

秋田県庁 正庁

3 出席者

・委員（50音順、敬称略）

浅野 雅彦	秋田県商工会議所連合会 事務局長
五十嵐 憲男	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会秋田県支部 副支部長
稲垣 寿	秋田市立下浜小学校長
門脇 隆幸	秋田県中央交通株式会社 営業部次長
岸 香織	秋田キャッスルホテル宿泊部フロア管理課 支配人
周防 敦子	一般社団法人 秋田建築士会女性委員会 幹事
菅原 香織	特定非営利活動法人 秋田バリアフリーネットワーク 理事長
鈴木 博	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会 事務局次長兼総務企画部長
高田 和明	秋田県ハイヤー協会 理事
星野 昇平	特定非営利活動法人 セカンドライフステージりんどう 理事長
前川 侖	公益財団法人 秋田県老人クラブ連合会 副会長
渡辺 幸哉	公募委員

※14名中12名出席

(参考) 欠席の委員（50音順、敬称略）

後藤 浩基	秋田市都市整備部長
須田 眞史	秋田県立大学 システム科学技術学部建築環境システム学科 教授

・県庁各課

総務課、総合政策課、あきた未来戦略課、観光振興課、交通政策課、長寿社会課、障害福祉課、県民生活課、農林政策課、雇用労働政策課、建築政策課、都市計画課、建築住宅課、特別支援教育課、警察本部（警務課・会計課・生活安全企画課・交通企画課・交通規制課）

- ・事務局

地域・家庭福祉課長、地域・家庭福祉課調整・地域福祉班員

4 開会

- ・委員の互選により、鈴木博委員を審議会会長に任命した。
- ・議事に先立ち、鈴木会長より、須田委員を職務代理者に指名した。

5 議事 (●委員の意見及び質疑等、○事務局及び県庁各課からの回答等)

【議事1 令和4年度バリアフリー関連事業について】

(主な質疑応答)

● 星野委員

副読本について、参考として20代～30代で結婚して子どもを育てるところで、ご時世的にも子どもを持たない方々もいらっしゃるのではないかと。

○ 事務局

副読本は昨年度改定し、小学3年生を対象に人生設計の参考として考えてもらう意図があったが、次回改定の際の参考にする。

● 鈴木委員

副読本の調査を来年度行うとのことだが、想定している内容について教えていただきたい。

○ 事務局

副読本をどうして活用しないのか、どうしたら活用していただけるのか等について、利用率100%目指し調査を行っていききたい。

● 菅原委員

第三次計画を踏まえての第4次計画の数値目標だったら、すぐに100%を超えない目標をしっかりと設定できたのではないかと。

○ 事務局

県有施設のバリアフリー化率など施設が減ったら自ずと実績が上がってしまうものがある。評価だけでは見えない部分があったので、改めて目標数値について考えていき

い。

● 岸委員

秋田キャッスルホテル前広小路歩道（セブンイレブンから木内前）の融雪状況について、雪を溶かしていただいているがうまく排水ができず歩道の半分が凍っている状態。特にバス停が並んでいるところなので確認いただきたい。

○ 事務局

担当課が不在のため後日回答する。

→秋田地域振興局建設部による回答

側溝の状況確認のほか、来冬の状態を確認してから対応策を検討したい。

● 渡辺委員

県立総合射撃場について、実際に入ってみると設備に加えて施設員の方々も協力してくださり、バリアフリーを感じた。

【議事2 令和4年度秋田県バリアフリー推進賞について】

● 浅野委員

秋田県立視覚支援学校について、イベントで大勢の前でのアナウンス活動を見て感動した。推進賞の審査に当たっては、今回の字面だけで想像するのは難しいので、工夫されているところなどをわかりやすいように提示していただきたい。

○ 事務局

現地視察に行った際の写真について、後日送付させていただく。審査については、委員の皆様にも現地視察に行く形で来年度以降調整していく。

● 菅原委員

青荷山荘についてはバリアフリーモニターツアー参加者からの報告受けていたので、それを併せて評価した。この推進賞をきっかけに他の施設でもバリアフリー化が推進していくことを期待している。

● 五十嵐委員

みんなのトイレと表示してあるが、勘違いして誰でも使えるという意味で捉える人も

いるのではないか。

○ 事務局

標示の仕方は施設によるところはあるが、表示方法について参考にさせていただく。

● 前川委員

推進賞の審査について、書面審査では採点に苦勞したため、できれば現地に行きたかった。また利用者の声も聞いてみたい。

● 岸委員

バリアフリー推進賞というものがあまり知られていないのではないか。心のバリアを取るための活動している施設や企業はたくさんあると思う。各施設にもっとPRした方が良いと思う。

○ 事務局

新聞等を注視しながら応募を働きかけていきたい。また、周知や推薦依頼には委員の皆様にも御協力願いたい。

● 渡辺委員

バリアフリー推進賞について、当事者のコメントや体験談などが見られるようであれば良い。

【議事3 その他】

● 周防委員

どんなバリアがあるのかなどのお話を聞く機会はあるがありがたい。ハードのバリアに加えて、ソフト面でのバリアにいろいろと対処できるようになってほしい。

● 門脇委員

生活バス路線等の確保の一般乗合事業免許キロ数には市町村で運営するコミュニティバスや乗合タクシーも含まれているのか。

○ 交通政策課

路線が設定されているバス路線のすべてのキロ数が含まれている。中央交通のような路線バス事業者が運行しているものや市町村が運行しているコミュニティ交通のキロ数も含まれている。

● 門協委員

バリアフリー適合証はいったん申請するとその後は何年かごとに確認等をし、適合した状態を維持しているのか。

○ 事務局

バリアフリー適合証を交付したあとについては、フォローができていない状態なので、方法等について検討していきたい。

● 高田委員

秋田県ハイヤー協会では、ユニバーサルデザインタクシーを運行するとともに、障害のある方を車両の中で接客するユニバーサルデザイン乗務員ドライバーが10数名活動している。協会として今後さらに研修等を事業計画に織り込んで、バリアフリーを推進していきたい。

● 稲垣委員

副読本について、校長会などで浸透させていきながら、有効的に活用できればと思う。また、バリアフリーと聞くとハード面が連想されるが、ソフト面について学校現場でも考えていくことが大事だと感じた。

● 鈴木委員

ハードとソフトをうまくかみ合わせながら、本県を住みやすく暮らしやすい地域づくりにつなげていくために、本委員会の役割は大きい。県でも意見を今後の施策に反映させていただければと思う。

6 閉会